

市政方針



いわくら ひろふみ
岩倉 博文
苦小牧市長

詳細政策推進課 ☎(32)6039

第27回市議会定例会で、岩倉市長は令和5年度の市政方針と予算案を示しました。
市政方針では、市民の安全・安心を第一に、20年先を見据えたまちづくりの実践にチャレンジする強い決意を表明しました。

はじめに

1 市政への想い

市民の皆様から5期目の市政運営を任されて、7か月が経過しました。生まれ育った苦小牧のため、誠心誠意、汗を流すことを改めて心に誓い、スタートを切っています。

市長就任当初から財政健全化を政策の第一目一番地と位置付け、行政改革に取り組んだ結果、一時期の危機的な状況を脱することができました。一方で、人口減少時代に突入し、生産年齢人口の減少に伴う財政への影響は避けられない状況にあります。今後は新たな視点を取り入れた創造的な市政運営に努めるとともに、税収減を前提とした持続可能な財政運営を進め、財政基盤の更なる強化を図ってまいります。

私にとって集大成となる5期目は、旧サンプラザビルを含む苦小牧駅前再開発の問題

2 時代認識

令和5年度は市制施行75周年の節目の年に当たります。困難な課題にも勇氣を持ってチャレンジし、市民の皆様とともに、苦小牧の歴史に力強い新たな歩を刻んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や、物価高騰による市民生活への影響など、国内外の社会経済情勢が大きく変化しており、市政においても時代の潮流をいち早く捉えたい対応が求められています。

新型コロナウイルス感染症への今後の対応につきましては、政府の方針や新たな変異株出現の状況を注視しつつ、日常の回復と変革

への挑戦をテーマに、アフターコロナを見据えた施策展開に努めてまいります。

また、政府はデジタル田園都市国家構想を掲げ、地域が抱える人口減少、高齢化、産業空洞化などの課題に対し、デジタル技術の活用により解決することを推進しています。本市においても、市民サービスの向上や行政手続の効率化に取り組み、誰もがICTを活用できるスマートシティの実現を目指してまいります。

本市は、令和4年の出生数が記録の残る中では初めて千人を下回りました。政府は、「従来とは次元の異なる少子化対策」を掲げ、急激に進む人口減少を食い止める政策の検討を進めており、本市においても、その動向を注視しながら加速する少子化に対応してまいります。

3 まちづくりの姿勢

令和5年度は、本市の最上位計画に当たる「苦小牧市総合計画第7次基本計画」の運用を開始します。人口減少、少子高齢化が進む中においても、理想の都市として掲げる人間環境都市の実現を目指し、全庁を挙げて取組を進めてまいります。

また、同じく運用が開始となる「苦小牧市立地適正化計画」に基づきコンパクトなまちづくりを進めるとともに、改定した「第2期苦小牧市総合戦略」に掲げる各種の取組を着実に実施することにより持続可能な都市を目指してまいります。

さらに、本市は、成長戦略として、ものづくり産業のさらなる展開「臨海ゾーンにおけるロジスティクス」の展開「臨空ゾーンにおける国際リゾート」の展開を掲げており、今後も

立ち止まることなくチャレンジを続けてまいります。

特に今年は、苦小牧港の開港から60周年を迎えます。昭和38年（1963年）の第1船入港から、現在では北日本最大の港湾として北海道経済、日本経済にとって重要な役割を担うまでに発展しています。時代の要請を踏まえたカーボンニュートラルポートへの対応など、新たな方向性に基づき、苦小牧港の更なる成長と発展を目指してまいります。

※1 デジタル技術の活用により諸課題を解決し、新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域のこと
※2 港湾地域内や出入する船舶・車両から排出される温室効果ガスをゼロにする港のこと

政策における共通理念

近年の急激な社会経済情勢の変化により、行政運営においても複数の分野からのアプローチが必要となる課題が顕在化しています。近未来につながるまちづくりを進める上で強調すべき視点を、政策における共通理念と位置付け、「人が集まる魅力の創造」「ゼロカーボンシティへの挑戦」「産業都市としてのさらなる飛躍」の3つを掲げます。今後、あらゆる政策を実行に移す上で、これらを強く意識して取り組んでまいります。

1 人が集まる魅力の創造

増加を続けてきた本市の人口は、平成26年（2014年）から減少に転じ、令和3年（2021年）には17万人を下回りました。まさに人を呼び込み、定着させるためには、分野を問わずあらゆる面で魅力的なまちである必要があります。

まちの魅力の創造に向けては、「苦小牧駅周辺ビジョン」の運用により、「苦小牧都市再生コンセプトプラン」の具現化に努めると